

1 学校の教育目標

自ら学び、豊かな心で、たくましく活動できる生徒の育成

2 学校経営ビジョン

テーマ ～地域に信頼される学校づくりを目指して～

「生徒が喜んで登校する学校」

「地域・保護者が通わせたい学校」

「教職員が働きがいのある学校」

をスローガンに、地域に信頼される学校づくりに努める。

3 経営方針

(1) 生徒が喜んで登校する学校

- ① 生徒が輝く、活動の場面をつくる。(褒め・認める)
- ② 生徒の大きな「夢」の実現に向け、分かる授業をする。(育て・鍛える)
- ③ 郷土・母校への誇りを持ち、安心して生活できる環境を整備する。(名誉・安心)
- ④ 生徒の心に寄り添い、いつでも相談できる環境や体制をつくる。(受容・共感)

(2) 地域・保護者が通わせたい学校

- ① いつでも誰でも訪れることのできる学校にする。(開かれた学校)
- ② 地域を大切にし、地域行事等に積極的に参加する学校にする。(地域とともにある学校)
- ③ 個に応じた、きめ細かな質の高い教育を行う。(学力の高い学校)
- ④ 適切な言葉を使い、生徒一人一人を大切にすること。(人権意識の高い学校)
- ⑤ 全ての教職員が学校づくりの主体者となり生徒を守る。(協働性のある安心・安全な学校)

(3) 教職員が働きがいのある学校

- ① 生徒の手本として、お互いに尊重し、元気よくあいさつをする。(節度と礼儀)
- ② 心一つにし、何事にも全員で対応する。(組織力)
- ③ お互いの立場を理解し、短所は見逃し長所を認める。(思いやり)
- ④ 教育者としての資質向上に努め、ホウ(報告)・レン(連絡)・ソウ(相談)を密にする。(プロ意識と危機管理)
- ⑤ 自己管理能力と規範意識を高める。(コンプライアンスの推進)

4 教育的課題

(1) 学力の向上

～生徒の大きな「夢」の実現に向けて、一人一人がのぞみを高く持ち、勉学に励むことのできる力を育成する。～

(2) 豊かな人間性・主体的に生きる力の育成

～生徒一人一人を大切にし、人の痛みが分かる思いやりの心を育成し、各行事をとおして、生徒の主体性を育み「当たり前のことが当たり前」にできる生徒を育成する。～

(3) 家庭と連携した家庭教育の充実

～PTAと連携した家庭教育の充実を図る。～

5 教育的課題解決の主な具体的な方策

(1) 学力の向上

① 現状

・ 学習意欲が高く、積極的に取り組む生徒も多数いるが、指示に対しては素直に取り組むが、自主的に学習したり、課題を解決しようとする主体性に劣る生徒も出てくる。家庭学習の習慣が十分でない生徒もおり、学力の二極化がうかがえる。

② 方策

- ・ 特色ある教育課程の編成、実施、評価、改善の充実を行う。
- ・ 「共通のチェックポイント」の実施、確認を行う。
- ・ 学習習慣を育成し、基礎学力の定着を図る学業指導の充実を図る。
- ・ 各種テスト等の分析及び個に応じたきめ細かな指導の工夫・改善。(授業力の向上)
- ・ 進路学習の計画的実施による進路指導の充実を図る。

(資料) 平成30年度 生徒による「授業評価アンケート」の結果 ※各項目ともに4段階で評価

評価項目		平均	評価項目		平均
1	わかりやすく集中できる	3.4	6	質問に丁寧に答えてくれる	3.7
2	ねらいや目標が示される	3.6	7	考えたり活動する時間がある	3.7
3	板書が整理されている	3.7	8	発表できる雰囲気がある	3.5
4	教材・教具が準備・工夫されている	3.7	9	復習できる宿題がある	3.6
5	声の大きさは適当である	3.8	10	提出物等の点検・指導がされる	3.6
			11	楽しく授業に参加できる。	3.7

(2) 豊かな人間性・主体的に生きる力の育成

① 現状

- ・ 伝統文化や学校行事、生徒会活動に意欲的に取り組んでいる。小学校時代に少人数で過ごしているため、自分の考えを表現したり、話し合い活動に参加することが苦手な生徒が見られる。また、人間関係をうまく構築することを苦手としている生徒もいる。
- ・ 思いやりのある言動が見受けられる生徒も多いが、困難な出来事を、自ら解決していこうとすることを、やや苦手としている生徒もいる。

② 方策

- ・ 当たり前のことが当たり前でできる生徒の育成。
(時・場に応じた基本的な生活習慣の徹底)
- ・ 生徒活動(生徒会、学級活動等)の活性化と充実。(実行委員会形式の推進)
- ・ 部活動の活性化と指導の充実を図る。
- ・ 道徳教育の充実と体験的な活動の充実を図る。
- ・ ピアサポート学習を通しての人権教育の推進を行う。
- ・ 読書習慣の確立と図書教育の充実を図る。
- ・ 環境美化への工夫と生徒のよる活動の充実を図る。
- ・ 支えられていることに気づき、感謝の心を育てる教育課程の構築を行う。

(3) 家庭と連携した家庭教育の充実

① 現状

- ・ 学校教育に関心も高く、理解と協力を得ている。学校側が今後も、家庭と連携をより一層図れる方策を講じなければならない。

② 方策

- ・ 学校便り、学級通信等の内容を検討し、保護者が求める情報と、伝えたい内容が読みやすくなりやすい内容になるよう適宜発信していくようにする。
- ・ 地域住民、公民館長、民生委員、児童委員等との積極的な情報交換を推進する。
(オープンスクールの充実)
- ・ 信頼される学校、開かれた学校づくりの推進を行う。
- ・ P T Aとの連携および家庭教育学級の充実を推進する。

6 学校評価の方針・内容・方法

(1) 課題解決に向けての学校評価の方針

- ① 経営ビジョン・経営方針を示し、学校評価をとおして、教育活動や学校運営について改善を図り、教育の質的向上を目指す。
- ② 学校・家庭・地域社会との連携を図り、信頼関係を基盤とした地域に支えられ、開かれた教育の推進を目指す。

(2) 学校評価につて

○ 評価内容・項目の設定

- ・ 「知育」「徳育」「体育」の3項目に、前年度の学校評価を参考にし、達成目標と方策、自己評価所見を作成する。

(3) 学校評価の方法(三段階の評価を行う。)

① 自己評価(第一次評価)

- ・ 教職員の自己評価を行い、目標に対する方策や実践を振り返った。評価の基準を具体的な目標ごとに4段階評価(4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する)で自校評価を設定した。保護者、生徒からもアンケートや授業評価を実施し自校評価の参考とした。

② 保護者代表評価(第二次評価)

- ・ 作成した学校評価を保護者代表者に二次評価者としてお願いした。保護者の代表者による第二次評価を集計し、その結果の考察・分析を行った。

③ 学識経験者、有識者評価(第三次評価)

- ・ 町教育委員会の指定した教職(校長)経験者に依頼し、客観的な立場から学校経営、教育活動等の評価を実施した。

7 平成30年度学校日之影町立日之影中学校 学校評価

4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

評価項目	達成目標と方策	学校の自己評価所見	自校評価	第二次評価	第三次評価
知 育	1 各種学力検査の分析、研究授業による授業力向上に取り組み、生徒による「授業評価」にて、全項目90%以上で肯定的な評価を得る。	生徒による授業アンケートでは、4点満点で、全項目で平均が3.4を上回っている。なかでも「楽しく授業に参加できる」は3.7を上回った。今後も授業力向上に引き続き取り組んでいきたい。90%以上で肯定的な評価を得た。	3	3	3
	2 基礎学力向上を目指して研究実践を行い、諸テストにおいて、県・地区平均を上回る成績が収められるようにする。	研究テーマに「確かな学力を身に付け、自ら学び考え、生かしていける生徒の育成育成」を掲げ、授業力向上班と学習環境研究班で、主体的で・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進し、個々に研究授業等も実施して授業力向上に取り組んだ。各学年で実施したテストにおいて、ほとんどが県の平均を上回ることができた。	3	4	3
	3 読書活動の推進に努め、生徒が毎日読書をするように習慣化を図る。	朝の読書指導、月1回の読み聞かせ、県立図書館の「やまびこ文庫」と連携した蔵書増などに取り組んだ。また、読書通帳の活用や新書やテーマごとの本の紹介等、図書環境の充実を図った。現在1581冊の貸し出しがある。	3	3	3
	4 学習の成果を試す検定試験や、各種大会への積極的な取組を推進する。	今年度は、英語検定、漢字検定の受検を励行し、英語検定は72名、漢字検定82名の受検者であった。また、作文では税に関する作文で会長賞1名、銅賞3名やその他の作品でも多くの入賞を果たしている。	3	3	3
	5 家庭学習の充実、演習等による繰り返し学習、放課後の個別指導等により、基礎・基本の徹底を図る。	朝のセミナー学習および、新聞を利用したの国語学習、教育委員会主催による学習塾の開設を実施して、生徒の基礎基本の定着を目指した。課題として学力の二極化があり、個々の能力の応じたきめ細やかな指導と、家庭との連携を図って行く。	3	3	3
	6 特別支援教育体制の確立に努め、適切な実態把握や関係機関との連携しながら支援に取り組む。	特別支援教育のニーズの把握に努め、特別支援コーディネーターを中心に、職員への研修や、外部機関と連携しての検査、研究会議等を行い、指導体制の充実に努めた。また、希望や紹介により、外部機関との相談会が増えた。	3	3	3
徳 育	1 礼法指導やソーシャルスキル学習を計画的に行い、望ましい人間関係づくりに取り組む。	本年度も年度初めに礼法指導を行い、校内での挨拶については常時指導を継続している。また、ピアサポートを取り入れた学習を各学年進めている。冬季休業中には、リーダー研修を実施して、人間関係を調整できる人材の育成にも努めた。	3	3	3
	2 生徒会活動や学級活動、総合的な学習の時間、道徳の時間等を通して、豊かな心を育成する。	体験活動や学校行事において、実行委員形式による活動で、自ら考え行動しする生徒が増えてきた。今後様々な場面で、実践に結びつけていく姿勢を育てていく必要がある。	3	3	3
	3 教育相談の充実や、共通理解・共通実践を図り、豊かな人間関係づくりに取り組む。	学校生活に関するアンケートや教育相談、毎週の職員朝会での共通理解を中心に生徒の実態把握に努めた。早期の対応や、継続的な支援ができた。	3	3	3

評価項目	達成目標と方策	学校の自己評価所見	自校評価	第二次評価	第三次評価
徳 育	4 地域の力を取入れた授業や、学校行事の運営を工夫・改善する。	地域の方々の協力のもと、充実した活動を行うことができ、文化祭では大人歌舞伎と深角団七踊りの伝統芸能を発表することができた。また、世界農業遺産に関する調査発表を昨年度から進化させ、地域への関心を高めることができた。学校美化や学校行事では、準備から実施まで多くの保護者の協力をいただき成功に導くことができた。	4	4	4
	5 生徒が地域行事へ積極的に参加できるよう指導する。	溪谷祭りや神楽等、町の行事へのボランティア活動に多数参加するなど、積極的に関わろうとする生徒がふえてきた。また、生徒会主催のゴミ拾い活動も実施し、今後も継続していきたい。	3	3	3
体 育	1 体育や体育的行事の充実、昼休み等の運動促進、一部徒歩通学、新体力テストの結果分析等により、生徒の体力向上を図る。	体育の授業を中心に、生徒各自の体力向上の取組をチェックすることができ、ほとんどの生徒に体力の向上が見られた。また、昼休みでの体育館解放や、常時握力検査ができる場所の設定など、体力向上に努めた。	3	3	3
	2 部活動の充実や地域の体育的な行事への積極的な参加を呼びかける。	各小学校の運動会への積極的な参加が見られた。町駅伝大会でも多くの生徒が参加した。保護者は部活動の取組に対して協力的であり、外部指導者も各部活動担当と協力しながら指導を行っている。その結果多くの部活動が県大会出場などの結果を残すことができた。	3	4	4
	3 学校保健委員会や参観日の懇談会の充実、学校だより・保健だよりの発行など、家庭との連携を図り、基本的な生活習慣の育成を図る。また、「弁当の日」を実施し、生徒の食への関心を高める。	授業における計画的な性教育や学校保健委員会で保護者・生徒・職員を対象にした「命の大切さ」の講演を行った。また、保健だよりと給食だよりの発行で基本的な生活習慣の育成を図った。食育の一環として、計画から栄養教諭の助けを受けながら、「弁当の日」を実施し、生徒の感想等の掲示を行った。	3	3	3